

豊かな心と確かな学力を育み、不登校未然防止のための学校体制づくり

いちき串木野市立串木野中学校

1 研究のねらい

本校の生徒は明朗活発で、授業や行事に落ち着いて一生懸命に取り組むことができる。一時期の荒れの状態を克服し、保護者・地域の協力のもと一体となって教育活動に取り組んでいる。一方で、生徒指導上の課題として不登校の問題が大きくなっている。その中でも、登校できない理由が明らかでないものや、発達障害に伴う二次障害に起因するものと考えられる不登校が増えてきた。

したがって、どの生徒も安心して授業に取り組むことができるような学習指導法の改善や職員の資質向上、学校外の関係機関との連携をスムーズに行うことが必要であると考え、本研究を推進することとした。

2 研究の概要

- (1) どの生徒も安心して学習に臨めるように指導法改善を図り、生徒の困り感に応じられるような指導を行えば、一人一人の生徒が落ちついて学習に取り組み、安心して人間関係を構築できるのではないかと。
- (2) 適切なアセスメントを行い、「チーム串木野中」として組織的に対応できる体制を構築することが不登校の未然防止につながるのではないかと。

3 研究の内容

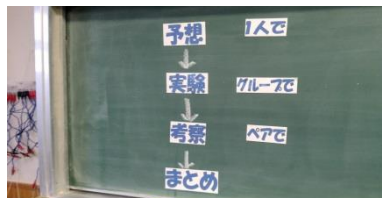
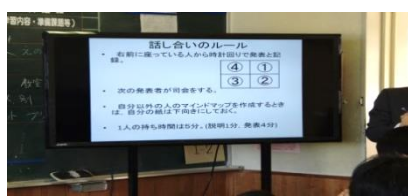
- (1) どの学級でもどの教科でも安心して生活や学習に取り組める生徒への手立てについて
 - ア ユニバーサルデザインに基づく授業設計と学習環境の整備（「串中スタンダード」～授業編～）
 - イ 各種アンケートを基にした生徒の実態把握と年間を通じた教育相談体制の整備
- (2) 演習や外部講師を招聘した職員研修の工夫について
 - ア カウンセリングの技法，N R T分析，合理的配慮の研修
 - イ 演習の時間を確保した実践的な研修
- (3) 「チーム串木野中」としての体制づくりについて
 - ア 「串中スタンダード」～不登校対応編～に基づく共通実践
 - イ コーディネーターを中心とした学校体制づくり

4 研究の実践

- (1) 「串中スタンダード～授業編～」に基づく実践

生徒が不登校になるきっかけ、あるいは教室復帰をためらう原因の一つである学習面の不安を軽減するため、ユニバーサルデザインの視点に基づく共通実践事項を「串中スタンダード」と名付けた。「学習環境の整備」「分かりやすい言葉かけ」「見通しをもたせる」ことを全教科で実践した。

学習環境の整備	分かりやすい言葉かけ	見通しをもたせる
○ 学級設営の統一（前面を校訓・授業の受け方・校時表のみとする。） ○ 板書の構造化（学習課題・まとめを決まった色で囲む。）	○ 一文で示せる範囲の長さで話す。（15秒以内が目安） ○ 一回の話で指示は一つ。 ○ 視覚情報を効果的に併用する。	○ 学習の進め方，活動内容，時間を明示することによって見通しをもたせる。 ○ カード，もしくは板書によって視覚化する。



(2) 生徒の実態把握と職員の資質向上の取組

本校では、学校生活アンケート（年３回）と、県総合教育センターの「学校楽しいと」、「SNSチェックシート」による調査を実施し、生徒の実態把握に努めている。そして、それらの結果を活用した教育相談を実施し、生徒理解の資料としている。また、職員研修で県総合教育センター教育相談課による「教育相談に生かすカウンセリング技法」や鹿児島大学アドバイザー事業による「特別支援教育」等の研修を設定し、演習を中心として取り組むことで職員の資質向上を図った。

(3) 「串中スタンダード～不登校対応編～」に基づく実践

本校では、学校と関係機関をつなぎ対象生徒の不登校対策のコーディネートを行う者を「コーディネーター」と呼んでいる。多くの場合、生徒指導主任や特別支援コーディネーターがこの役割を担う。コーディネーターを中心として、全ての職員がアンテナを高くして情報をキャッチし共有化を図った。そして、生徒に関わる人的・物的資源を活用し、不登校未然防止のために「チーム串木野中」として組織的に対応を図った。平成28年度は県の『「チーム学校」による不登校対策事業』の指定を受け、ケース会議においてコーディネーターを中心に、役割を明確にして不登校対応に当たった。

[illegible]

【ケース会議用アセスメント・シート】

5 研究のまとめ

(1) 成果

ア ここ数年の学校全体における不登校生徒在籍率は2.8～3.1である。28年度は県平均より低くなっている。市教育支援センターへほぼ毎日通ったり、週に数回登校し学習したりする生徒もいる。

イ 職員が不登校未然防止の取組を学校だけで抱え込むのではなく、あらゆる人的・物的資源を活用して、連携を意識しながら関係機関も含んだ「チーム」として対応することができるようになった。

(2) 課題

ア 不登校が継続している生徒に新たな不登校生徒が毎年加わっている。新たな不登校生徒を生まない取組が、今後、更に必要である。

イ 「串中スタンダード」の共通理解・共通実践の一層の徹底を図るとともに、生徒の実態に合わせて適宜見直し、改善を行っていく必要がある。

6 今後の取組

新規の不登校生徒を生まないために、更なる取組が必要である。2年間の研究の成果と課題を基に、課題を解決しながら生徒一人一人へ寄り添った柔軟な対応を図っていきたい。

